

雰囲気英語（全29講）

[目次]

- ・ 第1章 : 英語と日本語の違い [1]
- ・ 第2章 : 5文型 [2] ~ [6]
- ・ 第3章 : 名詞に意味を足す [7] ~ [10]
- ・ 第4章 : 文章に意味を足す [11] ~ [15]
- ・ 第5章 : 形容詞の応用 [16] [17]
- ・ 第6章 : 疑問・否定 [18] [19]
- ・ 第7章 : 名詞句の作り方 [20] [21]
- ・ 第8章 : 文章で意味を足す [22] ~ [27]
- ・ 第9章 : その他 [28] [29]

> この内容はぐっちの言語感覚による知識が大いに含まれております。

学術的な正しさとは異なる可能性があることをご承知おきください。

Step1. 英語の言葉の感覚-日本語との違い

[1] 英語と日本語の違い①

次の①から④の中で、1つだけ意味が分からないものがあります。

① ケンは 本を 読んだ

② 本を ケンは 読んだ

③ Ken read the book.

④ The book read Ken.

※英語と日本語は別の言語で、考え方が全然違います。
最初から完璧を求めるのではなく、英語の感覚を感じながら、
「間違えながら進んで当たり前」という気持ちが必要です。

[1] 英語と日本語の違い①

- ・ **主語** : 文章の中心 (人や物、概念の場合もある)
- ・ **動詞** : 主語がする動き
- ・ **目的語** : 動詞の動作が向かっていく対象

① **ケン** **は** **本** **を** **読んだ**

② **本** **を** **ケン** **は** **読んだ**

③ **Ken** **read** **the book.**

④ **The book** **read** **Ken.**

[1] 英語と日本語の違い①

① ケンは 本を 読んだ

② 本を ケンは 読んだ

主語と目的語の順番を替えても文章の意味は変わらない。
「は」「を」などの**助詞が意味をコントロール**。

③ Ken read the book.

④ The book read Ken.

主語と目的語を入れ替えると文章の意味が変わる。
助詞がないため、**順番で意味を固定**。

[1] 英語と日本語の違い①

最初の2語でどのくらい情報が伝えられるかというと・・・。

① ケンは本を
読んだ
執筆した
捨てた

動詞次第で
文章の意味が
大きく変わる。

③ Ken read
the book.
the magazine.
the novel.

動詞の意味に
関連するような
目的語しかこない。

> 日本語は最後まで話を聞かないと言いたいことが伝わらない。
英語は文章の**大事な部分（主語と動詞）**を先に伝えてくる。

[1] 英語と日本語の違い②

名詞はそのまま使うと概念。使うときは具体化を。

「私は本を読む」で日本語はOKだけど・・・

本 = book 「本とはこういう感じのもの」のイメージ

I read book. = 私は本というイメージを読む・・・？



○ I read the book. = 私はその本を読む。

○ I play baseball. = 私は野球をする（イメージでOK）。

[1] 英語と日本語の違い③

英語は**大事な部分を先に伝える**というのはフレーズでも。

• **本** = **the book**

青い 本 = **the blue book**

> これぐらいなら「**本**」は分かるから先に入れてあげよう。

机の上の 本 = **the book on the desk**

昨日買った 本 = **the book I bought yesterday**

> 補足が長くなったり、名詞が絡んできたら、
メインの名詞「**本**」が分かりにくくなるから後ろから説明する。

※冠詞（a とか the とか）は名詞部分の始まりの印。
どこまでが名詞なのかを見分けるのはトレーニングが必要。

[1] 英語と日本語の違い④

日本語は範囲を狭めて特定。英語は候補を残して特定。

例 1. 住所

兵庫県西宮市高木西町 1 4 - 6

14-6 Takaginishi-machi, Nishinomiya-shi, Hyogo

例 2. 年月日時

2023年8月31日3時25分

3:25 on August 31, 2023 / August 31, 2023, 3:25 a.m.

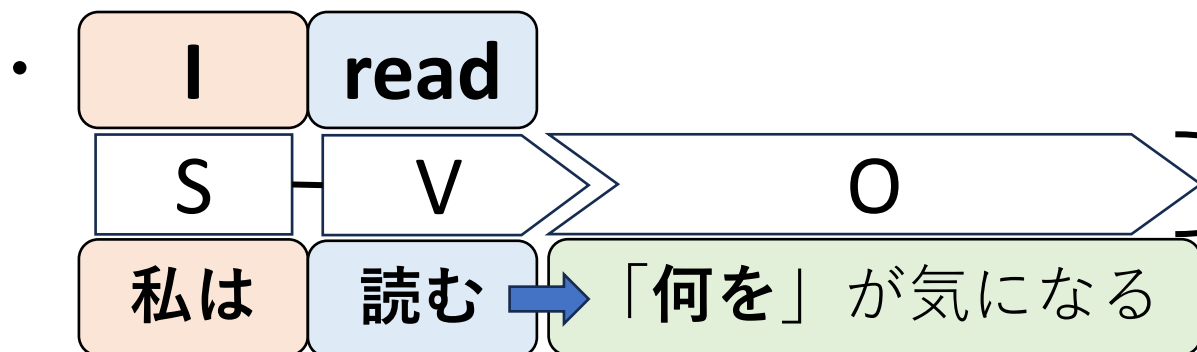
※ 日本語 → ズームして寄るイメージ

※ 英語 → ピンが減っていくイメージ

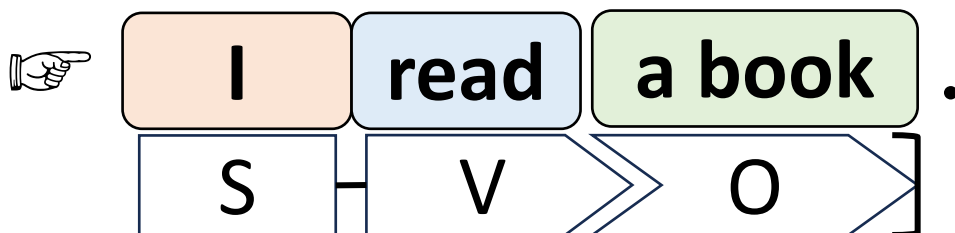
Step2. 英語の型 - 5文型

[2] SVO (一番基本の型)

英語は**大事な部分**（主語：s、動詞：v）を先に伝える。



気になる人多そうなら、そのまま続きで目的語を書いてあげよう。



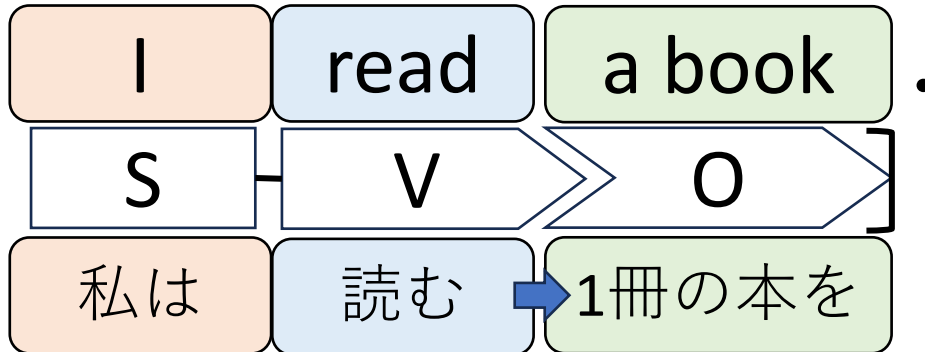
※ 「主語」が「動詞」する → 「目的語」に向けて。

上記が揃うと、基本の文章として成立している状態になる。

※ 目的語の無い文章も、もちろんある。

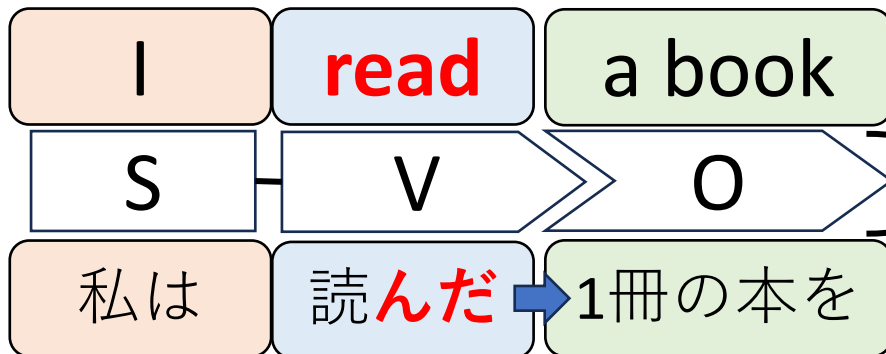
[3] SVO (過去形・三単現)

「現在形」

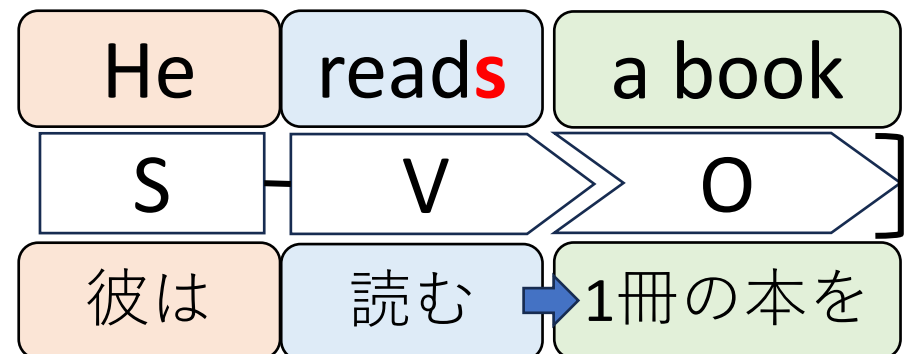


私は本を読みます。

「過去形」



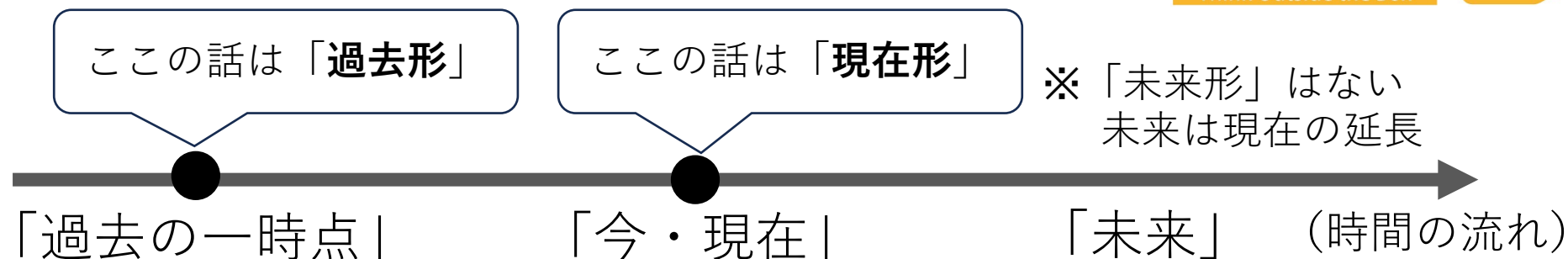
「三単現」：三人称・単数・現在



※ 日本語と同じように、動詞を変形させて時制を示します。

※ 三単現は日本語にはない感覚です。

[3] 過去形



👉 動詞の時制

(1) 規則動詞：動詞にedを付ける

呼ぶ	call	called
勉強する	study	studied

(2) 不規則動詞：原形－過去形－過去分詞形

読む	read	read	read
する	do	did	done

[3] 三単現（三人称・単数・現在形）

👉 ① 三人称

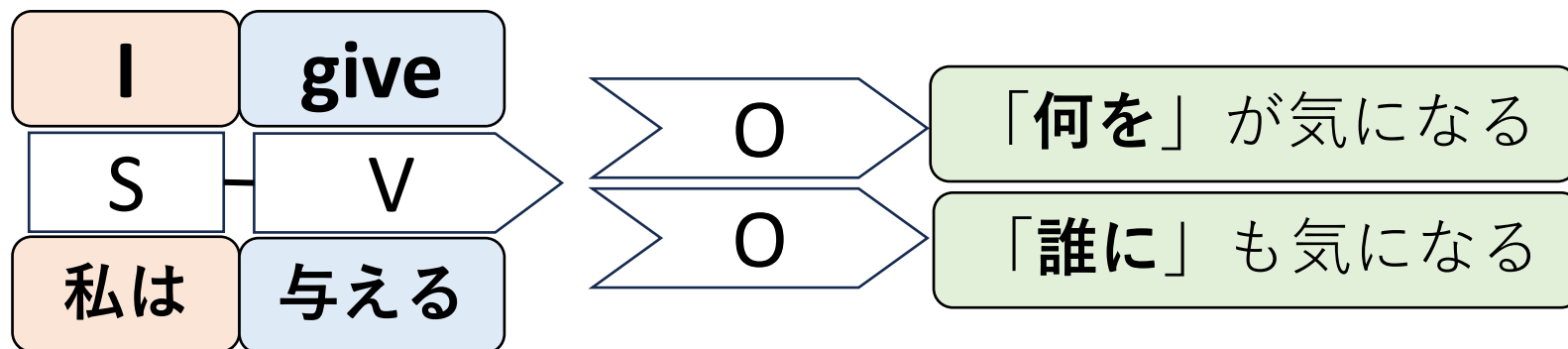
👉 ② 単数（1）（⇔ 複数：2 以上）

	単数				複数			
	主格	所有格	目的格	所有代名詞	主格	所有格	目的格	所有代名詞
一人称	I	my	me	mine	we	our	us	ours
二人称	you	your	you	yours	you	your	you	yours
三人称	he	his	him	his	they	their	them	theirs
	she	her	her	hers				
	Tom	Tom's	Tom	Tom's				
	it	its	it					

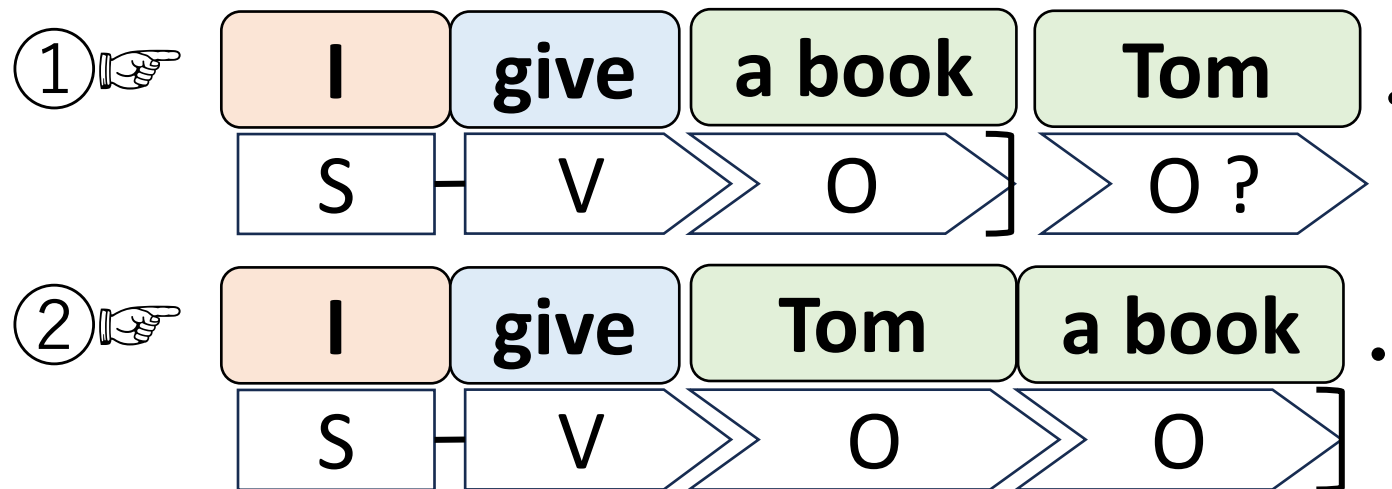
👉 ③ 現在形

> 主語にこの3つ揃ったときに、**動詞に s(es)** を付ける。

[4] SVOO (目的語を2つ取りたい)



順番で意味が決まる英語なので、



「何を」が先にくると、[SVO]で文章が完成したと思ってしまう。

[5] SVC (be動詞)

I	am	a boy
S	V	C
私は	—	少年

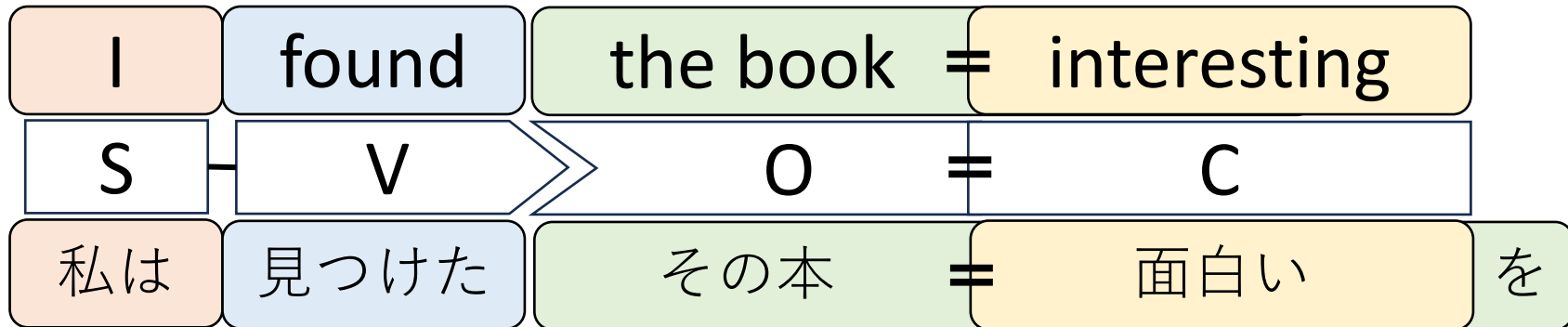
C：補語

補う言葉。他の単語の追加情報。
隣接して置かれることが多い。

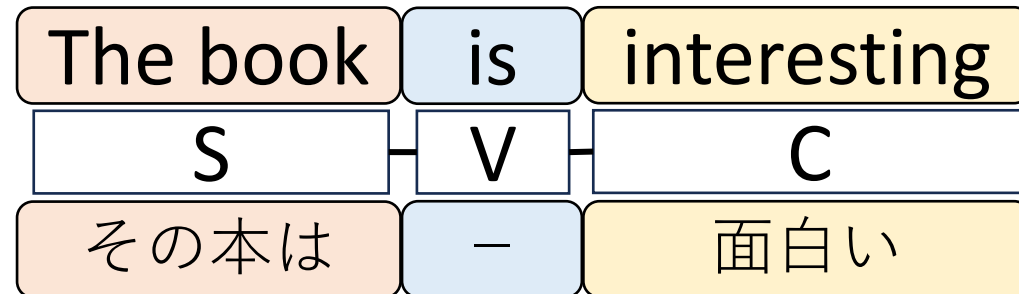
be動詞の意味：①「＝」、②「存在」、
③**無意味**（文章には動詞が必要なので**形だけ**）
→並べて置くとその単語の補完情報（補語）。

be動詞 の変化	単数		複数		(共通)	
	現在形	過去形	現在形	過去形	原形	過去分詞 形
一人称	am	was	are	were	be	been
二人称	are	were				
三人称	is	was				

[6] SVOC (並べて置くと情報補完)



cf.) SVC (be動詞)



私は見つけた。その本 = 面白いことを

👉 私はその本が面白いことが分かった。

※ be動詞がなくても、並べて置けば情報の追加や補完になる。

[6.5] 5 文型まとめ

【型】

① S V

名詞	動詞
Luke	cried

② S V C

名詞	動詞	名詞※
Jack	is	a boy

※名詞の他に、
形容詞が来る場合もある。

③ S V O

名詞	動詞	名詞
Leo	read	a book

④ S V O O

名詞	動詞	名詞	名詞
Alex	gave	Eren	a book

⑤ S V O C

名詞	動詞	名詞	名詞※
Toby	calls	Tom	Tommy

[6.5] 5 文型まとめ

【訳】

① S V

名詞	が	動詞	する
Luke		cried	

② S V C

名詞	は	動詞	名詞※	(です)
Jack		is	a boy	

③ S V O

名詞	は	動詞	する	名詞	を
Leo		read		a book	

④ S V O O

名詞	は	動詞	する	名詞	に	名詞	を
Alex		gave		Eren		a book	

⑤ S V O C

名詞	は	動詞	する	名詞	名詞※
Toby		calls		Tom	Tommy

Step3. 名詞に意味を足す方法 - <Mn>の使い方

[7] 形容詞 (名詞に意味を足す①)

名詞を中心に意味のまとまりを作る。

> 形容詞の基本的な使い方

・ 少年 = the boy

背の高い 少年

= the tall boy

・ 本 = the book

面白い 本

= the interesting book

> 重ねても使える

・ 大きな 白い 犬

= the big white dog

> somethingはちょっと特殊

・ 何か 面白い こと

= something interesting

※ something anything nothing は感覚をつかむのが難しい。

[8] 分詞 (名詞に意味を足す②)

動詞を形容詞化して使う。

・ 少年 = the boy

背の高い 少年

= the **tall** boy

泣いている 少年

= the **crying** boy

※ 動詞 cry : 泣く

→ 現在分詞

crying : 泣いている状態

・ 本 = the book

面白い 本

= the **interesting** book

使われた 本 (古本)

= the **used** book

※ 動詞 use : 使う

→ 過去分詞

used : 使った状態
使われた状態

[8] 分詞 (名詞に意味を足す②)

動詞を形容詞化して使う。

・ 少年 = the boy

泣いている 少年

= the **crying** boy

向こうで泣いている 少年

= the boy **crying (over there)**

・ 本 = the book

使われた 本 (古本)

= the **used** book

イコが書いた 本

= the book **written (by Iko)**

※ 分詞はもともと動詞なので、O (目的語) を持てたりする。

the boy **playing the bass**

=

ベースを弾いている 少年

V'

O'

[9] 前置詞句 (名詞に意味を足す③)

句：単語の集まり。前置詞＋名詞で前置詞句。

・ 本 = the book

机の上の 本 = the book on the desk

> 前置詞 on ＋名詞 the desk でひとかたまり。
the desk も名詞なので、もちろん同じように意味は足せる。

👉 大きな机の上の 本 = the book on the big desk

いろんな意図が伝わる前置詞句 (前置詞はイメージ覚える)

私の部屋の カギ

① my room's key

② the key of my room

③ the key to my room

[10] 不定詞句 (名詞に意味を足す④)

不定詞：to + 動詞の原形で不定詞句。

・ 少年 = the boy

> 不定詞はもともと動詞なので、O (目的語) を持てたりする。

the boy **to join the art club** = **美術部に入部する** 少年

V' >> O'

※ 「何を？」と聞きたくなるが、その目的語の部分がメインの名詞なので、動詞の後の目的語は省略されていることも。

👉 **買うべき** 本 = the book **to buy ()**

※ 後ろを省略するパターンにはこういうものも

👉 **住むための** 家 = the house **to live in ()**

Step4. 名詞以外に意味を足す方法 – (Mv)の使い方

[11] 副詞 (動詞・文章に意味を足す①)

副詞 = 動詞や形容詞に意味を足す。

> 形容詞に意味を足す

The boy	is	tall	⇒	The boy	is	very	tall
その少年は	ー	背が高い	⇒	その少年は	ー	とても	背が高い

> 動詞に意味を足す (基本)

副詞①

S

副詞②

V

O

副詞③

① 強調したいものがあるときはここに

② 動詞に強い影響があるときはここに

③ その他の多くはここに

※ 順番が大事な英語。
なのに結構自由。

例文)

The boy	often	reads	the book	silently
その少年は	よく	読む	本を	静かに

[12] 前置詞句 (動詞・文章に意味を足す②)

> 動詞に意味を足す (基本)

①

S

V

O

③

① 強調したいものがあるときはここに

③ その他の多くはここに

※ 順番が大事な英語。
なのに結構自由。

例文)

The boy

reads

the book

in the library

その少年は

読む

本を

図書館の中で

Cf.)

The boy

reads

the book

in the library

その少年は

読む

本を

図書館の中の

※ どっちも同じ意味になることも多いので 厳格に区別しなくてもOK。
自然に意味が通るように読めばよい。

[13] 不定詞句 (動詞・文章に意味を足す③)

①

S

V

O

③

① 強調したいものがあるときはここに

③ その他の多くはここに

※ 順番が大事な英語。
なのに結構自由。

(1)

The boy

reads

the book

to satisfy his curiosity

その少年は

読む

本を

彼の好奇心を満たすために

> 不定詞の「to」は前置詞の「to」と本質的に同じなので、不定詞も素直に「to：目指す方向、進んでいる方向は…」と読んでOKです。

(2)

To solve the problem ,

the boy

reads

the book

問題を解くために

その少年は

読む

本を

[14] 助動詞 (動詞・文章に意味を足す④)

S

②

V

O

※ 動詞を助ける助動詞
当然この位置

② 動詞に強い影響があるときはここに

(1)

The boy

can

read■

the book

その少年は

(可能)

読む

本を

⇒ その少年は本を読むことができる。

(👉その少年は本を読める。)

> 助動詞は動詞の「時制」と「補助」を担うことで助けます。
なので助動詞の後ろの動詞は時制を無くして「原形」を置きます。

(2)

The boy

must

read

the book

その少年は

(義務)

読む

本を

[14] 助動詞 (動詞・文章に意味を足す④)

(3)	The boy	may	read	the book
	その少年は	(許可)	読む	本を

(4)	The boy	will	read	the book
	その少年は	(意思)	読む	本を

⇒ その少年はその本を読むつもりがある。

(👉 その少年はその本を読むだろう。)

※ 「現在その意思がある」 = 「未来ではそれをしているだろう」ということで未来の表現と言われている。

> 助動詞の 過去形例	can	could	must	×
	may	might	will	would

[15] 分詞構文 (動詞・文章に意味を足す⑤)

助詞や接続詞を雰囲気でつないでいく

Step 1. 助詞で補う

SVOO

ex1.) I give **him** **a book** .

SVOC

ex2.) I found **the book** **interesting** .

Step 2. 雰囲気の合う接続詞を補う

接続詞 As

ex1.) **As I had a headache,** I left early.

ex2.) **As we get older,** we gain knowledge.

ex3.) Solve this problem **as I did** .

[15] 分詞構文 (動詞・文章に意味を足す⑤)

助詞や接続詞を雰囲気をつないでいく

Step 3. 分詞を使った句を接続詞で補う

現在分詞

ex1.) **Listening to music ,**

I'm going to work hard today .

ex2.) **Weather permitting ,**

the stars are beautiful .

過去分詞

ex3.) **Put another way ,**

he is a very smart man.

Step5. 形容詞の周辺 – SVCの分詞と比較

[16] 形容詞と分詞 (現在進行形と受動態)

【形容詞・分詞を含んだ名詞句】⇒ 【形容詞・分詞を使った文章 (svc)】

①

the tall boy	⇒	The boy	is	tall
背の高い 少年	⇒	その少年は	—	背が高い

> 分詞は動詞を形容詞化したものなので、
形容詞と同じように使える。

②

the crying boy	⇒	The boy	is	crying
泣いている 少年	⇒	その少年は	—	泣いている

※ これを「be動詞＋V-ingは現在進行形」と習う場合も多いが、
分詞として捉える方をオススメ。

[16] 形容詞と分詞 (現在進行形と受動態)

【形容詞・分詞を含んだ名詞句】⇒ 【形容詞・分詞を使った文章 (svc)】

③

the **thick** book

⇒

The book is **thick**

分厚い 本

⇒

その本は - **分厚い**

④

the **used** book

⇒

The book is **used**

使われた 本

⇒

その本は - **使われた**

> 過去分詞は「過去にした状態」なだけ。
「した」のか「された」のか、動作の方向は文章内容による。

※ これを「be動詞＋過去分詞は受動態」と習う場合も多いが、
分詞として捉える方をオススメ。

[16] 形容詞と分詞 (現在進行形と受動態)

【形容詞・分詞を含んだ名詞句】 ⇒ 【形容詞・分詞を使った文章 (svc) 】

> 修飾語が長くなっても、基本は変わらない。

the boy **playing the bass** ⇒ The boy is **playing the bass.**

ベースを弾いている 少年 ⇒ その少年は **ベースを弾いている**

※ 「play」は目的語を使う動詞。「playing」の目的語に「the bass」を置ける。

the book **written by Iko** ⇒ The book is **written by Iko.**

イコによって書かれた 本 ⇒ その本は **イコによって書かれた**

※ 「written」は「“書く”が過去にあった状態」。「by」は「そば」の意味。
直訳すると「“書く”が過去にあった状態＋そのそばにイコ」。
そこから「イコによって書かれた」と訳したが「イコが書いた」でも良い。

[17] 形容詞の応用 (比較)

【基本形】

The boy	is	tall
---------	----	------

その少年は	ー	背が高い
-------	---	------

【比較（1対1）】

The boy	is	taller	than me
---------	----	--------	---------

その少年は	ー	より背が高い	(比較対象は) 私
-------	---	--------	-----------

The boy	is	taller	than I am
---------	----	--------	-----------

その少年は	ー	より背が高い	(比較対象は) 私
-------	---	--------	-----------

※ 「than」のあとの比較対象は
「単語」でも「文章」でもOK。

[17] 形容詞の応用 (比較)

【最上級 (範囲の中で1番)】

The boy	is	the	tallest	of the three
---------	----	-----	---------	--------------

その少年は	—	一番背が高い	その3人の中の
-------	---	--------	---------

> 一番だと誰だか特定できるので「the」を付ける
※ 「tallest」のあとに「boy」が省略されている

【同格 (1対1)】

The boy	is	as tall	as me
---------	----	---------	-------

その少年は	—	それぐらい背が高い	(比較対象は) 私
-------	---	-----------	-----------

The boy	is	as tall	as I am
---------	----	---------	---------

その少年は	—	それぐらい背が高い	(比較対象は) 私
-------	---	-----------	-----------

※ 「as」のあとの比較対象は「単語」でも「文章」でもOK。

Step6. 疑問文と否定文

[18] 疑問・否定 (一般動詞)

- ・ 疑問文や否定文は、普通の肯定文よりもしっかり伝えたい。

①

S

②

V

O

① 強調したいものがあるときはここに

② 動詞に強い影響があるときはここに

「強調」の助動詞
「do」を使う

> 疑問文

Does

the boy

read

the book

?

(強調)

その少年は

読む

本を

(疑問)

※ 疑問文は返事をもらいたいから特に強調して伝えたい。

> 否定文

The boy

does

not

read

the book

その少年は

(強調)

(否定)

読む

本を

[19] 疑問・否定 (be動詞)

- ・ be動詞はもともと意味が無いので助動詞「do」も使わない。

①

S

②

V

O

① 強調したいものがあるときはここに

② 動詞に強い影響があるときはここに

「be動詞」に
働いてもらう

> 疑問文

Is

the book

interesting

?

(強調)

その本は

面白い

(疑問)

※ 疑問文は返事をもらいたいから特に強調して伝えたい。

> 否定文

The book

is

not

interesting

その本は

—

(否定)

面白い

> ②の変化形で、notがbe動詞の後ろに付く。

Step7. 名詞句の使い方 – 不定詞・動名詞・分詞

[20] 不定詞名詞的用法と動名詞

(ちょっと復習)

【不定詞】
(形容詞)

We want **the boy** **to join the art club**

私たちは **美術部に入部する** 少年を 求めています

【現在分詞】
(形容詞)

the boy **crying over there** is my son .

向こうで泣いている 少年は 私の息子です

【不定詞】
(副詞)

The boy reads the book **to gain knowledge** .

その少年は **知識を得るために** その本を読む。

【現在分詞】
(副詞)

Weather permitting , the stars are beautiful .

天気が許せば 星がきれいです。

[20] 不定詞名詞的用法と動名詞

【不定詞】(名詞)

To know is **to live** .

知ることは **生きること**

【動名詞】

Reading books is a good thing. **本を読むことは** 良いことです

※ 「**to + V**」も「**Ving**」も、
形容詞的にも、副詞的にも、名詞的にも使える。

※ 「**Ving**」は、形容詞的と副詞的には分詞の項目だが、
名詞的なのは動名詞の項目。

※ 「**to + V**」は不定詞なので、不確定な**未来**の要素
「**Ving**」は、経験済みの**過去**の要素に使いがち。

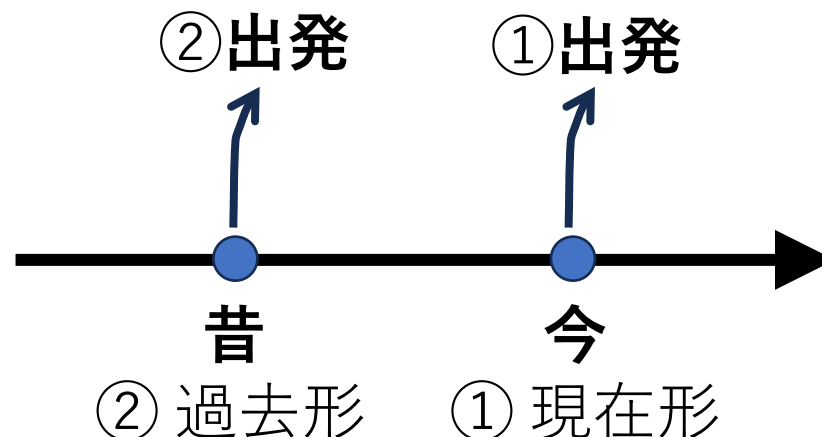
[21] 影響を持ち続ける完了形

① 現在形 He goes to Thai.

今タイに**出発**する

② 過去形 He went to Thai.

過去にタイに**出発**した



※ ③ 現在**完了形** He **has gone to Thai**.

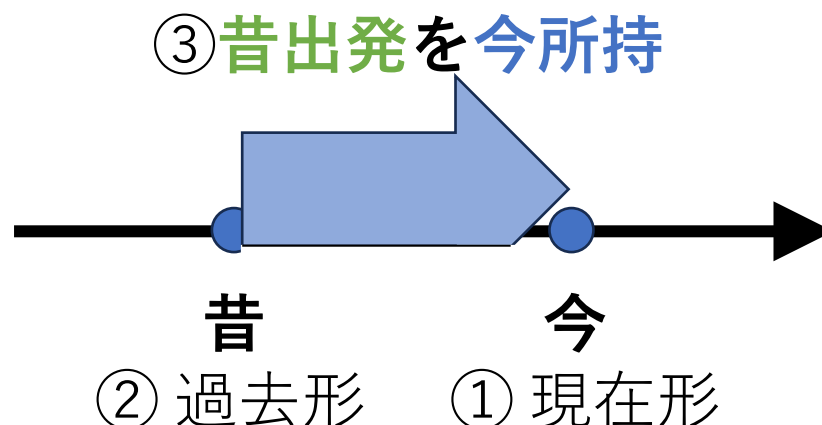
今持っている

過去に出発した(状態)

→ He **has** [**gone to Thai**].

S V O 過去分詞で名詞句

(= 今もタイにいる)



[21] 影響を持ち続ける完了形

※ ④ 過去**完了形** He **had left**. ④大昔去ったのを過去所持

過去持ってた

さらに過去に去った(状態)



→ He **had** [**left**].

S V O

大昔 昔
④ '過去完了形 ② 過去形

(= 過去に去ってしまっていた)

否定・疑問 (have は助動詞：所持 扱い)

肯定文

I have climbed Mt Fuji .

否定文

I haven't climbed Mt Fuji .

疑問文

Have you climbed Mt Fuji ?

Step8. 文章で意味を足す方法（節）－関係詞・疑問詞

[22] 節

句：主語・動詞の**ない**語群

節：主語・動詞の**ある**語群

1. 名詞に意味を足す場合（形容詞の役割）

形容詞句

ex.) a book **to read**

形容詞節

ex.) a book **which I should read**

2. 文章や名詞以外に意味を足す場合（副詞の役割）

副詞句

ex.) I left early **for the video**

副詞節

ex.) I left early **because I was sick**

3. 名詞の役割を作る（名詞の役割）

名詞句

ex.) I know **how to do**

名詞節

ex.) I know **that he is well**

[23] 関係詞

関係詞＝文章で詳しく情報を足す。

- “人”に情報を足す（関係代名詞）：
who（主語・目的語として）
whose（所有格）
whom（目的語）

This is a man **who(m)** I met yesterday .

= こちらは 私が昨日会った 人 です。

I have a friend **who** is a fighter .

= 私には 格闘家の 友人 がいます。

I have a friend **whose** father was mayor .

= 私には 父親が市長だった 友人 がいます。

[23] 関係詞

関係詞＝文章で詳しく情報を足す。

- “もの”に情報を足す（関係代名詞）：
 - which（主語・目的語として）
 - whose（所有格）

I fixed the machine **which** broke yesterday .

= 私は 昨日壊れた 機械 を修理しました。

The machine **that** I fixed yesterday was the latest model.

= 私が昨日修理した 機械 は最新型でした。

I bought a book **which** I should read .

= I bought a book to read .

[23] 関係詞

関係詞＝文章で詳しく情報を足す。

Who is the woman **that** helped us ?

＝ 誰が 私たちを助けた **女性** ですか？

- “場所”や“時”などに意味を足せる

(関係副詞)

:

when

where

why

how

I remember the day **when** we first met .

＝ 私は 私たちが初めて会った **日を** 覚えています

I remember the place **where** we first met .

＝ 私は 私たちが初めて会った **場所を** 覚えています

[24] 疑問詞 (① : why / when)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **why** : “理由”  なぜ .

Why did you do (that) ? : **Why** + 疑問文 ?

→ 「疑問文の理由をたずねる」

= **なぜ** あなたはそうしたのですか ?

Why don't you go fishing ? : **Why** + 否定疑問文 ?

→ 「疑問文の理由をたずねる」

= **なぜ** あなたは釣りに行かないのですか ?

→ 「釣りに行きましょうよ !」

[24] 疑問詞 (①: why / when)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **why** : “理由”  なぜ .

That is **why** it works. : 「**why** + 文章」が補語

= あれが **それが働いている** **理由** です。

➡ 「だから上手くいくんです」

Do you know **why** he did ? : 「**why** + 文章」が目的語

= あなたは **なぜ** **彼がそれをしたのか** を知っていますか？

Cf.) Do you know the reason **why** he did ? (関係詞)

[24] 疑問詞 (① : why / when)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **when** : “時”  いつ .

When can I meet ? : **When** + 疑問文 ?
→ 「疑問文の時をたずねる」

= いつ わたしは会うことができますか ?

When did you think it was me ? : **When** + 疑問文 ?

= いつ それが私だと思いましたか ?

When is my turn ? : **when** が補語の疑問文

= 私の出番は いつ ですか ?

[24] 疑問詞 (①: why / when)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **when** : “時”  いつ .

When in love, even pockmarks are dimples.

= 恋をしている **とき** あばたもえくぼ (= 恋は盲目)

He was twenty **when** he left home .

= 彼が家を出た **とき** 彼は20歳だった。

Chew well **when** eating .

= 食べている **とき** よく噛みなさい。

[24] 疑問詞 (①: why / when)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **when** : “時”  いつ .

I remember **when** we first met . 「**when** + 文章」が目的語
= 初めて会った **ときのこと** を覚えています。

Sunday is the day **when** I broadcast the game (関係詞)
= 日曜日は 私がゲーム配信をする **日** です。

Cf.) Sunday is **when** I broadcast the game

[25] 疑問詞 (② : where / who)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **where** : “場所”  どこ .

Where **were you ?** : **Where** + 疑問文？

→ 「疑問文の場所をたずねる」

= あなたは **どこに** いましたか？

Where **can I get the book ?** : **Where** + 疑問文？

→ 「疑問文の場所をたずねる」

= **どこで** 私はその本を手に入れることができますか？

[25] 疑問詞 (②: where / who)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **where** : “場所”  どこ .

Please tell me **where** he went yesterday

「**where** + 文章」が目的語

= 彼が **どこに** 行ったのか を教えて欲しい

Here is the place **where** a car is washed . (関係詞)

= ここは 車が洗われる **場所** (= 洗車場) です。

Cf.) Here is **where** a car is washed .

[25] 疑問詞 (② : where / who)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **who** : “人”  誰 .

Who **are you ?** : **Who** + 疑問文？

→ 「疑問文の人をたずねる」

= あなたは **だれ** ですか？

Who **cleaned the room ?** : **Who** が主語の疑問文

→ 「主語の疑問詞（人）をたずねる」

= **どこで** 私はその本を手に入れることができますか？

[25] 疑問詞 (②: where / who)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **who** : “人”  誰 .

I don't know **who** he is. : 「**who** + 文章」が目的語
= 私は **彼が 誰か** 知らないです。

I know **who** he is looking for .

= 私は **彼が 誰を** 探しているのか を知っています

Cf.) I know the person **who**he is looking for . (関係詞)

[26] 疑問詞 (③ : what / how)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **what** : “もの・こと”  何 .

What is this ? : **What** + 疑問文 ? ➡ 「物事をたずねる」

= これは 何 ですか ?

What is right ? : **What** が主語の普通の文 (疑問)

= 何が 正しいのか ?

What time is it ? : **What** + おまけの物事を問う疑問文 ?

= 何時 ですか ? ※ 「What + 何か」の場合もある

[26] 疑問詞 (③: what / how)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **what** : “もの・こと”  何 .

I know **what** to do . : **what** + to do 「名詞 + 不定詞」

= 私は **何** をすべきか を知っています

Show me **what** you have . : **what** + 文章 「名詞 + 文章」

= **あなたが持っている** **もの** を私に見せてください

What a nice day today !

= **何て** **良い日** なんだ今日は !

- 大事なことは先に。
- さらに**what**で強調。

[26] 疑問詞 (③: what / how)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **how** ① : “程度”  どのくらい .

How are you ? : **How** + 疑問文 ? ➡ 「程度をたずねる」

= あなたは どのくらい ですか ? ➡ 「お元気ですか？」

How often do you water ? : **How** + α の程度を問う疑問文 ?

= どのくらいの頻度で 水やりをしますか ?

※ バリエーションはいくらでも

How much : 量

How many - s : 数

How long : 期間の長さ

How far : 距離の遠さ

How old : 年齢の経過

[26] 疑問詞 (③ : what / how)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **how** ① : “程度”  どのくらい .

How do you like it ?

→ 「いかがですか？」

= あなたは **どのくらい** それが好きですか？

Depend on **how** you feel .

→ 「あなた次第です」

= あなたが **どう** 感じたか によります

How beautiful this is !

・ 大事なことは先に。

= **どんだけ** きれい なんだこれは ! ・ さらにhowで強調。

[26] 疑問詞 (③ : what / how)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **how** ② : “方法”  どのように .

How did you make it ? : **How** + 疑問文 ? 「方法をたずねる」

= あなたは **どのように** それを作ったのですか ?

I learn **how** to sing well . : **how** + to do 「名詞 + 不定詞」

= 私は **何** をすべきか を知っています

I don't know **how** he studies . : **how** + 文章 「名詞 + 文章」

= 私は **彼が どのように** 勉強しているか を知らない

[27] 疑問詞 (④: which / whose / whom)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **which** : “選択”  どっち、どれ .

Which **is better ?** : **Which** + 疑問文 ?

= **どっちが** **より良い ?** → 「疑問文の選択をたずねる」

Which side **won ?** : **Which** + **α** が主語の疑問文

= **どっち側が** **勝ちましたか ?**

※バリエーションは豊富

Which way : どの道

Which color : どの色

Which floor : 何階

Which page **was this photo on ?**

: **Which** + **α** が目的語の疑問文

= **どのページに** **この写真が載っていましたか ?**

[27] 疑問詞 (④: which / whose / whom)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **which** : “選択”  どっち、どれ .

We caught a fish **which** tastes good

(関係詞)

= 私たちは **(その)** 美味しい 魚 を購入しました

He bought a house **in which** to live .

(関係詞)

= 彼は **(その中で)** 住むための 家 を購入しました

I don't know **which** is **which** .

= 私は **どっち** が **どっち** か 分からない

[27] 疑問詞 (④: which / whose / whom)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **whose** : “人の” 誰の .

Whose is this ?

: **Whose** + 疑問文 ?

= これは 誰のもの ですか ?

→ 「所有をたずねる」

Whose turn is it next ?

: **Whose** + α が補語の疑問文

= 次は 誰の順番 ですか ?

※これもバリエーションは豊富

I met a person **whose name** is Hero .

(関係詞)

= 私は ヒロという 名前の 人 と出会いました。

[27] 疑問詞 (④ : which / whose / whom)

疑問詞 = これから“その”話をするという宣言。

- **whom** : “人を・に” 👉 誰を・に . : ほぼ **who** に

Whom did you see ? : **Whom** + 疑問文 ?

= あなたは 誰に 会いましたか ? 「目的語の人をたずねる」

From whom is the letter ? : 前置詞の目的語としての **whom**

= その手紙は 誰から ですか ?

This is the friend **whom** she loves .

(関係詞)

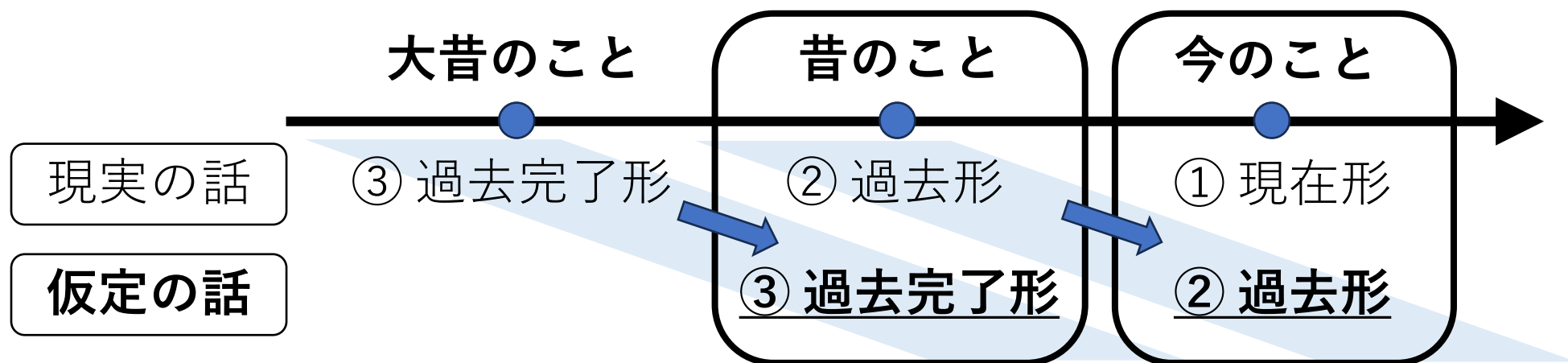
= こちらは 彼女が好きな 人である 友人 です。

Step9. その他を少しだけ－仮定法・it

[28] 仮定法

「現実ではあり得ない**仮の話**」 = **時制をずらす**

(日本語でも「もし鳥だったら」など同じく時制をずらす)



仮定法過去

If I were young , I could do it .

仮定法過去完了

If I hadn't been ill , I would have gone there .

仮定法過去

I wish I had more money.

[29] 主語の it

大いなるものだったり 後回しにしたり 焦らしてみたり。

普通の代名詞として、主語になることももちろんできる。

Pattern 0. 指示語の“それ”

指示語

It is a book.

It's me.

Pattern 1. “大いなるもの”の話のとき

時間・日

It is Sunday, today. (Today is Sunday. もあり)

天気

It was sunny, yesterday.

距離

It is 15 km from here to home.

[29] 主語の it

大いなるものだったり 後回しにしてみたり 際立たせてみたり。

Pattern 2. 先に文章の骨格を示すとき

形式主語

It is clear that what she says is true.

※ 後回しにするのは目的語の位置の場合も可能。

形式目的語

I found it fun to eat dinner with everyone.

Pattern 3. シンプルにして際立たせるとき

強調

It was Tom who solved this problem today.

It was yesterday that she solved this problem.

It was this problem that everyone was trying to solve